

自然ガイドと市民を対象にしたジオツアー

Geo-tour for nature guides and citizens

澤田 結基^{1*}, 武田 一夫², 川辺 百樹³, 藤山 広武⁴

Yuki Sawada^{1*}, Takeda Kazuo², Kawabe Momoki³, Fujiyama Hirotake⁴

¹産業技術総合研究所 地質標本館, ²帯広畜産大学, ³上士幌町立ひがし大雪博物館, ⁴十勝の自然史研究会

¹Geological Museum, AIST, ²Obihiro Univ. of Agri. and Veter. Med., ³Higashi Taisetsu Museum of Natur. Hist.,
⁴Study group of natural hist. in Tokachi

はじめに

フィールドワークを行う研究者は、地層や地形、植生を観察しながら、地域の自然の成り立ち（自然史）を組み立てる。この作業はパズルを解く感覚にも似ており、そこに研究の面白さを見つけた研究者は多いであろう。この知的作業のおもしろさを伝えることが、研究者が市民、あるいは自然ガイドをフィールドに案内する大きな目標になる。本報告では、2009年夏に北海道・北十勝で行った自然ガイド向け、および市民向けのジオツアーの実施結果を報告し、地域の取り組みに対して研究者が果たす役割について考察する。

地域概要

ジオツアーの対象地域は、北海道十勝地方の北部に位置する然別湖と糠平湖を中心としたエリアである。このエリアの一部は大雪山国立公園に指定され、然別火山群やニペソツ山を含み、「東大雪」と呼称される。主なジオサイトとして、約1～4万年前に噴火活動のあった然別火山群とそれに堰き止められた然別湖、風穴・永久凍土や高山植物が分布し、エゾナキウサギの生息地でもある岩塊斜面や崖錐、最近カルデラであることが確認された十勝三股盆地と、そこから噴出した溶結・非溶結の火砕流堆積物などが挙げられる。

自然ガイドを対象にしたジオツアー

市民向けのジオツアーを行うにあたって、まず地域の自然ガイドを対象としたジオツアーを企画した。十勝地域で活躍するプロの自然ガイドに地形・地質についての理解を深めてもらうのと同時に、我々が行うインタープリテーションや企画に意見をもらうことが目的である。ツアーは2009年5月29日に日帰りで実施し、上川・十勝・札幌から11名の自然ガイドの参加があった。ツアーでは然別火山群の火山地形、風穴・永久凍土とヤンベツ川の河川地形を見学し、最後に見学地で見学内容をまとめる講演と反省会を行った。ツアーの内容については当日紹介する。

参加者には研究者の話の判断するための基礎知識がないので、研究者の説明は基本的にそのまま受け入れざるを得ない。しかし研究者の説明には、すでに論文として発表されたもの、論文化はまだだが合理的に考えてほぼ確実なものと、その場で考えた不確実性の高い解説が入り交じる。そこで今回のツアーでは、確実性をそれぞれA、B、Cにランク分けして参加者に明示するようにした。参加者に判断基準を明示するこの取り組みは、非常に好評であった。

アンケートの結果、いくつかの重要なポイントが浮かび上がった。そのひとつとして、地層や地形の解説では、その成り立ちを徹底してビジュアルに表現する必要が指摘された。火砕流堆積物の解説を例にとると、火砕流の写真を示して堆積物が流れてきたイメージを持ってもらう、地形図の等高線表現に頼らず、直感的にわかる鳥瞰図を用意する、などの工夫が必要である。

市民を対象にしたジオツアー

自然ガイド対象のジオツアーを受けて、東大雪地域において、市民対象のジオツアーを企画した。このツアーは、JSTの「地域の科学舎推進事業」の助成を受け、帯広畜産大学の公開講座として実施されたものである。ツアーには大学生、会社員、退職者、教員など、主に帯広と周辺の町から合計28名の参加があった。ツアーは1泊2日の行程で、初日に然別湖周辺、2日目に十勝三股から十勝平野を見学するコースを設定した。夜は糠平の温泉ホテルに泊まり、夕食後には関連するトピックを紹介する講演会を行い、2日目の朝にはひがし大雪博物館の展示解説を行った。ビジュアルなジオサイトの解説書(16p)を作成し、旅程表とともに参加者に配布した。

アンケートの自由記述欄や参加者との会話から、ツアー全体にストーリーを貫くことが参加者の理解度を高めることが読みとれた。ツアーの2日目には、十勝三股カルデラの中心から見学をスタートし、十勝平野に残る火砕流堆積物の流走方向に沿ってルートを設定し、火砕流が発生してから溶結凝灰岩や級化構造ができるまでの経過がわかるように解説を行った。火砕流の流れに沿って行った解説に対して「わかりやすかった」という声が多く、個々のサイトをつなぐストーリーが理解を助けていたと考えられる。また、ツアーでは、地形に関連させてエゾナキウサギやオコジョ、野鳥や森林植生の解説も行ったが、生物の話も、ツアーへの印象を楽しいものにすることに効果が高かったようである。

研究者の果たす役割

地形・地質を中心としたジオツアーは、非専門家である参加者にとって十分に楽しめる企画であったと考えている。そして、満足度の高いジオツアーには、解説に使うために整理されたジオサイトの情報と、ジオサイトをつなぐストーリーが必要である。そのためには、論文などの研究資料をまとめる技術や、場合によっては現地調査を行って新しい知見を付け加える作業が必要になる。このような作業こそが、地形・地質の研究者に求められる貢献であろう。

キーワード:ジオツアー,自然ガイド,インタープリテーション,十勝,然別,大雪山国立公園

Keywords: geotour, nature guide, interpretation, Tokachi, Shikaribetsu, Mt. Taisetsu national park